

## 2022年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2021年11月2日

上場会社名 株式会社プロルート丸光 上場取引所 東  
 コード番号 8256 URL <https://www.proroute.co.jp/>  
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)森本 裕文  
 問合せ先責任者 (役職名)管理本部長 (氏名)中原 秀和 (TEL)06(6262)0303  
 四半期報告書提出予定日 2021年11月4日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2022年3月期第2四半期の連結業績(2021年3月21日~2021年9月20日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第2四半期	2,093	△30.6	△165	—	△175	—	△180	—
2021年3月期第2四半期	3,018	6.0	25	—	22	—	10	—

(注) 包括利益 2022年3月期第2四半期 △182百万円 (—%) 2021年3月期第2四半期 16百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第2四半期	△6.29	—
2021年3月期第2四半期	0.36	0.36

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第2四半期	4,183	1,120	24.5
2021年3月期	3,414	996	28.2

(参考) 自己資本 2022年3月期第2四半期 1,023百万円 2021年3月期 964百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2022年3月期	—	0.00	—	—	—
2022年3月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2022年3月期の期末配当につきましては、現時点では未定とさせていただきます。

### 3. 2022年3月期の連結業績予想(2021年3月21日~2022年3月20日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	6,700	15.3	230	260.7	190	251.5	130	802.2	4.46

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 有

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規1社(社名)株式会社マイクロブラッドサイエンス、除外 —社(社名)—

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2022年3月期2Q	29,491,840株	2021年3月期	28,411,840株
2022年3月期2Q	1,001株	2021年3月期	1,000株
2022年3月期2Q	28,772,785株	2021年3月期2Q	28,410,840株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	10
(追加情報)	11
3. その他	12
継続企業の前提に関する重要事象等	12

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間においては、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う断続的な緊急事態宣言が発出され、商業施設の営業時間短縮や外出自粛の影響が続き、衣料品の市況は、非常に厳しい状況となりました。

このような経営環境の中、当社グループは「既存総合衣料卸売事業の収益回復」、「ECプラットフォーム事業の推進」、「D2Cアパレル商材の生産事業」、「ビューティー&ヘルスケア事業の拡大」、「エンターテイメント事業におけるオリジナルコンテンツの育成」等を重点施策として取り組んでおります。

総合衣料卸売事業においては、組織体制刷新による過剰在庫の抑制等を中心とした管理体制の強化による利益率の改善やコロナ禍における来店顧客減少による売上低下に歯止めをかけるべく、自社販売商品のEC化や売場外売上の獲得に注力しておりますが、本年4月からの緊急事態宣言の断続的な発出やまん延防止等重点措置の適用に伴う衣料品への消費低迷の影響が大きく、また、前年のような衛生関連商品に対する大きなニーズもなかったことから、大きく苦戦を強いられました。

D2Cアパレル商材の生産事業においては、当第2四半期に著名人のデザインしたアイテムを当社が生産し、ファッション通販サイト「ZOZOTOWN」において、YouTubeやSNSと連動した企画販売を行いました。本件における売上は第3四半期において計上される予定であり、今後も新規企画の展開を計画し、D2Cアパレル商材の生産を推進してまいります。

全国の出店メーカーと会員小売店が直接取引を行える会員制仕入れ専用BtoBサイトによるECプラットフォーム事業においては、2021年9月27日より事業を開始しており、メーカーにとっては地域を超えた全国小売店への販路拡大ツールとして、また、小売店にとっては出店メーカーとオンラインで取引を行うことができ、仕入先を大幅に拡大するツールとして、アフターコロナに向けたニューノーマルな時代に合わせた仕入れサイトを運営してまいります。

ビューティー&ヘルスケア事業においては、インフルエンサーとコラボレーション企画した「カラタス」ブランド商品の販売拡充やインドネシア、バリ島発のヘアケアブランド「マカリゾ」の国内独占販売元として販路拡大を進めております。また、新型コロナウイルス抗原検出キットやPCR検査キットについては、新型コロナ感染の第5波の状況下需要が高まり、売上が伸びました。今後も新型コロナウイルスのワクチン接種後の中和抗体の有無を確認する検出キット等、コロナ禍の経済活動における一助となる新たな商品展開を進めてまいります。

連結子会社株式会社Sanko Advance が手がけるエンターテイメント事業においては、引続きコンサート開催が厳しい環境化ではありますが、オリジナルコンテンツの育成等が順調に推移して、計画以上の進捗となりました。

以上の結果、当社グループ全体の当第2四半期連結累計期間の売上高は、20億93百万円（前年同四半期比30.6%減）、営業損失は165百万円（前年同四半期は営業利益25百万円）、経常損失は1億75百万円（前年同四半期は経常利益22百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は1億80百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純利益10百万円）となりました。

今後は、経営資源の選択と集中による既存総合衣料卸売事業の収益回復を早急化させるとともに、新規事業の早期収益化や新たに連結子会社となった株式会社マイクロブラッドサイエンスと連携し、当社グループ全体での事業拡大・業態転換を進めてまいります。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

#### (卸売事業)

売上高は、20億33百万円（前年同四半期比31.4%減）、営業損失は70百万円（前年同四半期は営業利益94百万円）となりました。

#### (小売事業)

前連結会計年度において、店舗営業を終了しているため、小売事業を営む株式会社サンマールの営業損失は0百万円（前年同四半期は営業利益30百万円）となりました。

#### (エンターテイメント事業)

エンターテイメント事業を営む株式会社Sanko Advanceの売上高は60百万円（前年同四半期比202.1%増）、営業利益は36百万円（同313.2%増）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

### ①資産、負債及び純資産の状況に関する分析

当第2四半期連結会計期間末における総資産は41億83百万円となり、前連結会計年度末に比べて7億68百万円増加いたしました。これは主として現金及び預金が2億79百万円、流動資産その他が1億57百万円、無形固定資産その他が1億12百万円、株式会社マイクロブラッドサイエンスの株式取得に伴いのれんが1億69百万円、投資その他の資産その他が2億19百万円それぞれ増加する一方で、受取手形及び売掛金が1億70百万円減少したことによるものであります。

負債合計は30億63百万円となり、前連結会計年度末に比べて6億44百万円増加いたしました。これは主として長期借入金(1年内返済予定の長期借入金を含む)が11億88百万円、流動負債その他が2億7百万円それぞれ増加する一方で、買掛金が35百万円、短期借入金が6億52百万円それぞれ減少したことによるものであります。

純資産は11億20百万円となり、前連結会計年度末に比べて1億23百万円増加いたしました。これは主として株式交付による新株式発行により資本剰余金が2億41百万円増加する一方で、親会社株主に帰属する四半期純損失1億80百万円の計上により利益剰余金が減少したことによるものであります。

### ②キャッシュ・フローの状況に関する分析

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、株式交付に伴う現金及び現金同等物の増加額1億31百万円を含め、以下に記載のキャッシュ・フローにより6億51百万円となり、前連結会計年度末に比べ2億59百万円増加いたしました。

第2四半期連結累計期間に係る区分ごとのキャッシュ・フローの状況は以下のとおりであります。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における営業活動による支出は1億56百万円(前年同四半期は2億26百万円の支出)となりました。収入の主な内訳は、減価償却費22百万円、売上債権の減少2億11百万円であり、支出の主な内訳は、税金等調整前四半期純損失1億72百万円、退職給付に係る負債の減少額36百万円、仕入債務の減少額37百万円、その他の減少額が1億18百万円であります。

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における投資活動による支出は1億42百万円(前年同四半期は42百万円の支出)となりました。収入の主な内訳は、定期預金の払戻による収入50百万円であり、支出の主な内訳は、固定資産の取得による支出1億22百万円、定期預金の預入による支出70百万円であります。

#### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における財務活動による収入は4億27百万円(前年同四半期は0百万円の支出)となりました。収入の主な内訳は、長期借入れによる収入11億47百万円であり、支出の主な内訳は、短期借入金の減少6億52百万円であります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、緊急事態宣言の解除による消費の回復が見込まれることや新たに連結子会社化した株式会社マイクロブラッドサイエンスの収益を第3四半期以降計上するため、2021年8月3日に発表いたしました数値に変更はありません。なお、開示が必要となりました場合は、速やかにお知らせいたします。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月20日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月20日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	691,641	971,526
受取手形及び売掛金	701,865	531,647
商品及び製品	567,296	593,369
原材料及び貯蔵品	1,287	5,650
その他	75,218	233,056
貸倒引当金	△577	△498
流動資産合計	2,036,732	2,334,752
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	378,155	361,943
機械装置及び運搬具(純額)	41	3,738
工具、器具及び備品(純額)	9,052	24,309
土地	412,558	412,558
リース資産(純額)	0	0
建設仮勘定	135	-
有形固定資産合計	799,943	802,549
無形固定資産		
のれん	289,141	458,764
その他	126,391	238,449
無形固定資産合計	415,532	697,214
投資その他の資産		
投資有価証券	66,881	67,089
差入保証金	86,551	93,125
その他	9,597	228,832
貸倒引当金	△346	△40,349
投資その他の資産合計	162,684	348,698
固定資産合計	1,378,160	1,848,462
資産合計	3,414,892	4,183,214

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月20日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月20日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	242,017	206,852
短期借入金	1,340,000	687,500
1年内返済予定の長期借入金	160,000	228,740
未払金	37,393	10,880
未払法人税等	28,094	8,549
未払費用	93,347	87,624
その他	92,147	299,827
流動負債合計	1,993,001	1,529,973
固定負債		
転換社債型新株予約権付社債	-	30,000
長期借入金	-	1,119,331
退職給付に係る負債	360,237	323,442
資産除去債務	8,630	8,646
長期末払金	4,031	812
その他	52,534	50,816
固定負債合計	425,433	1,533,048
負債合計	2,418,434	3,063,021
純資産の部		
株主資本		
資本金	50,000	50,000
資本剰余金	884,777	1,126,697
利益剰余金	9,689	△171,254
自己株式	△111	△112
株主資本合計	944,354	1,005,330
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	18,841	18,650
繰延ヘッジ損益	1,221	△209
その他の包括利益累計額合計	20,062	18,441
新株予約権	32,041	40,708
非支配株主持分	-	55,712
純資産合計	996,457	1,120,192
負債純資産合計	3,414,892	4,183,214

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2020年3月21日 至2020年9月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自2021年3月21日 至2021年9月20日)
売上高	3,018,441	2,093,637
売上原価	2,326,902	1,628,715
売上総利益	691,538	464,921
販売費及び一般管理費	666,023	630,264
営業利益又は営業損失(△)	25,515	△165,342
営業外収益		
受取利息	24	10
受取配当金	1,452	1,261
受取賃貸料	4,704	980
助成金収入	8,275	2,759
消費税差額	2,745	5,427
その他	982	1,177
営業外収益合計	18,185	11,615
営業外費用		
支払利息	12,793	19,088
株式交付費	-	522
資金調達費用	7,029	2,400
その他	1,440	1
営業外費用合計	21,264	22,012
経常利益又は経常損失(△)	22,436	△175,738
特別利益		
役員退職慰労未払金戻入額	-	3,218
事業構造改善引当金戻入額	1,890	-
特別利益合計	1,890	3,218
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	24,327	△172,519
法人税、住民税及び事業税	12,430	8,476
法人税等調整額	1,655	△52
法人税等合計	14,085	8,424
四半期純利益又は四半期純損失(△)	10,241	△180,943
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	10,241	△180,943

四半期連結包括利益計算書  
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年3月21日 至 2020年9月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年3月21日 至 2021年9月20日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	10,241	△180,943
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	8,228	△190
繰延ヘッジ損益	△1,761	△1,430
その他の包括利益合計	6,467	△1,621
四半期包括利益	16,709	△182,564
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	16,709	△182,564
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2020年3月21日 至2020年9月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自2021年3月21日 至2021年9月20日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	24,327	△172,519
減価償却費	22,689	22,704
のれん償却額	16,063	16,063
貸倒引当金の増減額(△は減少)	64	△479
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	3,050	△36,795
事業構造改善引当金の増減額(△は減少)	△46,190	-
受取利息及び受取配当金	△1,477	△1,271
支払利息	12,793	19,088
売上債権の増減額(△は増加)	△320,720	211,571
たな卸資産の増減額(△は増加)	△88,063	617
仕入債務の増減額(△は減少)	121,157	△37,922
その他	47,079	△118,806
小計	△209,226	△97,750
利息及び配当金の受取額	1,477	1,271
利息の支払額	△12,663	△24,033
法人税等の支払額	△6,277	△36,262
営業活動によるキャッシュ・フロー	△226,690	△156,775
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	-	△70,000
定期預金の払戻による収入	-	50,000
固定資産の取得による支出	△43,854	△122,905
資産除去債務の履行による支出	△16,981	△10,000
投資有価証券の取得による支出	△309	△219
投資有価証券の売却による収入	127	-
貸付金の回収による収入	420	240
出資金の回収による収入	300	-
差入保証金の差入による支出	△20,780	-
差入保証金の回収による収入	45,218	9,939
長期前払費用の取得による支出	△6,326	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	△42,185	△142,944
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	-	△652,500
長期借入れによる収入	-	1,147,600
長期借入金の返済による支出	-	△67,173
自己株式の取得による支出	-	0
配当金の支払額	△5	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△5	427,926
現金及び現金同等物に係る換算差額	△18	0
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△268,899	128,206
現金及び現金同等物の期首残高	643,324	391,641
株式交付に伴う現金及び現金同等物の増加額	-	131,677
現金及び現金同等物の四半期末残高	374,424	651,526

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前第2四半期連結累計期間(自 2020年3月21日 至 2020年9月20日)

1. 配当金支払額

無配のため、該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

無配のため、該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

2020年6月18日開催の第69回定時株主総会において、資本金及び資本準備金の額の減少並びに剰余金の処分について承認可決され、2020年7月22日付で効力が発生しており、資本金204,839千円及び資本準備金541,239千円がそれぞれ減少し、繰越利益剰余金が1,547,155千円増加しております。

この結果、当第2四半期連結会計期間末において資本金が50,000千円、資本準備金が50,000千円となっております。

当第2四半期連結累計期間(自 2021年3月21日 至 2021年9月20日)

1. 配当金支払額

無配のため、該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

無配のため、該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

当社は、2021年6月25日開催の取締役会決議に基づき、2021年7月21日付で当社を株式交付親会社、株式会社マイクロブラッドサイエンスを株式交付子会社とする株式交付を実施いたしました。この結果、資本剰余金241,920千円増加しております。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2020年3月21日 至 2020年9月20日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注1)	四半期連結損 益計算書計上 額(注2)
	卸売事業	小売事業	エンターテイ メント事業			
売上高						
外部顧客への売上高	2,966,016	32,424	20,000	3,018,441	—	3,018,441
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,137	48,527	9,150	58,815	△58,815	—
計	2,967,154	80,952	29,150	3,077,257	△58,815	3,018,441
セグメント利益	94,426	30,962	8,734	134,123	△108,608	25,515

(注) 1 セグメント利益の調整額△108,608千円は、セグメント間取引消去△107千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△108,500千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3 エンターテイメント事業は、前連結会計年度末に連結の範囲に含めた株式会社Sanko Advanceの事業であります。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

## II 当第2四半期連結累計期間(自 2021年3月21日 至 2021年9月20日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注1)	四半期連結損 益計算書計上 額(注2)
	卸売事業	小売事業	エンターテ イメント 事業	メディカル 事業			
売上高							
外部顧客への売上高	2,033,210	—	60,426	—	2,093,637	—	2,093,637
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	2,033,210	—	60,426	—	2,093,637	—	2,093,637
セグメント利益又は損 失(△)	△70,586	△884	36,089	—	△35,381	△129,960	△165,342

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額△129,960千円は、セグメント間取引消去5千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△129,966千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3 前連結会計年度において、小売事業に分類していた株式会社サンマールの店舗営業を終了しております。このため、当第2四半期連結累計期間において小売事業の売上高の計上はありません。

## 2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第2四半期連結会計期間より、株式会社マイクロブラッドサイエンスが連結子会社となったことに伴い、「メディカル事業」を新たに報告セグメントに追加しております。

なお、株式会社マイクロブラッドサイエンスのみなし取得日を、2021年6月30日としているため、当第2四半期連結累計期間は貸借対照表のみを連結しております。

## 3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

メディカル事業セグメントにおいて、2021年6月30日をのみなし取得日として、株式会社マイクロブラッドサイエンスが新たに連結子会社となっております。

なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第2四半期連結累計期間において185,686千円であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(追加情報)

(連結納税制度の適用)

当社および連結子会社は、当連結会計年度から連結納税制度を適用しております。

(新型コロナウイルス感染症拡大に伴う会計上の見積りについて)

前連結会計年度の有価証券報告書の(追加情報)(新型コロナウイルス感染症拡大に伴う会計上の見積りについて)に記載した内容から重要な変更はありません。

### 3. その他

#### 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、前連結会計年度において、一連の事業構造改革によるグループあげてのコスト削減や、新たな収益事業の推進等により、各段階利益において黒字化を果たしましたが、営業活動によるキャッシュ・フローは継続してマイナスとなっており、また、当第2四半期連結累計期間においても、営業損失、経常損失を計上していることから、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせる事象又は状況が存在していると認識しております。

今後の見通しにつきましては、新型コロナワクチン接種の普及により感染収束が期待されるものの、その時期についてはいまだ予断を許さず、当社グループを取り巻く経営環境は引き続き厳しい状況が続くものと予想されます。

特に、既存総合衣料卸売事業におきましては、総じて厳しい状況が今後も継続すると予想されますが、経営資源の選択と集中による変革を図り収益回復を果たしてまいります。また、その他の事業においても、経営資源の再分配を行うことで、新たな施策に取り組み、グループ全体での黒字安定化を目指してまいります。

今後当社グループの各事業が注力する施策は、以下のとおりです。

#### 総合衣料卸売事業

- ①EC比率の向上と取引先及び顧客をマッチングさせるECプラットフォーム事業の展開
- ②テレワークやイェナカなど消費者の新たなライフスタイルに合わせた商品開発
- ③レディースアパレルを中心とした、付加価値の高いプライベートブランド開発による新規売上の獲得
- ④インフルエンサー等のキャスティングによるD2Cアパレル商材のOEM・ODM生産
- ⑤ジーエフホールディングス株式会社との業務提携による「海外市場」商材を活用した新規顧客の開拓や新規販売チャンネルの構築及び物流改革によるコスト削減
- ⑥管理手法の強化による過剰在庫の抑制及び不採算取引の徹底管理による販売管理費の削減

#### ビューティー&ヘルスケア事業

- ①「カラタス」ブランド製品のコラボ企画による売上拡大及び国内シェア拡大
  - ②ヘアケア商品を中心とした「マカリゾ」など新規ブランドの展開及びコスメ商材の開発
  - ③新型コロナウイルス抗体・抗原検査キット及びPCR検査キットの拡充
  - ④微量採血デバイスを使用したトータルヘルスケアチェック&ソリューション「Lifee」事業の拡大
  - ⑤Vazyme Biotech Co., LTD.の有するモノクローナル抗体細胞株を用いた新型コロナウイルス治療薬の創薬化に向けた日本の製薬企業へのアプローチ
- ③④⑤は、主として新規連結子会社となった株式会社マイクロブラッドサイエンスの事業となります。

#### エンターテインメント事業

- ①オリジナルコンテンツ育成による収益化
- ②高い知名度を有するアーティストのコンサートグッズの製造管理
- ③アーティストのブランディングやイベント・グッズ企画立案とコンサルティング

以上の諸施策に当社グループ一丸となって取り組み、また、新経営体制のもと、既存事業の領域にとらわれない新規事業にも積極的にチャレンジし、グループ全体での黒字安定化並びに成長局面への移行を果たしてまいりたいと考えております。

また、事業資金面につきましても、既存取引金融機関と良好な関係にあることに加え、当第2四半期連結累計期間においては、新規金融機関より長期借入金の調達を行っており、当面の事業資金の確保もできていることから、継続企業の前提に関する不確実性は認められないものと判断しております。